

府民啓発講座

・京都府スーパーサポートセンター 第6回公開講座  
・はあとふる企業応援塾

平成26年

2月22日(土)

“誰もが認め合い、ささえあい  
働く喜びを分かち合える社会をめざして”

＝報 告＝



2月22日(土)龍谷大学アバンティ響都ホールにおいて、府民啓発講座を実施しました。保護者、福祉・労働・教育関係者、一般の府民の方を含めて221人の参加がありました。

まずはじめに京都府教育庁指導部特別支援教育課、岩見理課長から開会挨拶と説明がありました。次に、京都府スーパーサポートセンター岡田所長から「つながり・ささえる京都府スーパーサポートセンターの取組」、京都ジョブパーク「はあとふるコーナー」徳田マネージャーから「就労に向けた京都ジョブパーク『はあとふるコーナー』の取組」の二つの取組紹介がありました。

「本人からのメッセージ」(シンポジウム)では、京丹後市にある株式会社徳本 代表取締役社長の徳本晃一様、宇治市にある角井食品株式会社 常務取締役 角井美穂様、同じく角井食品株式会社 中江博之様に御登壇いただきました。徳本代表取締役社長様、角井常務取締役様からは、障害者雇用の実際について、障害のある方御本人の働く工夫、社員の理解促進、保護者へのメッセージ、社会貢献の視点からお話いただきました。

当事者の中江様は、城陽支援学校通学高等部を卒業されたのち、角井食品に入社され10年目を迎えられました。現在はサブリーダーとして御活躍です。学校時代に学んだこと、働くうえでの工夫、余暇の過ごし方、自己理解等についてお話いただきました。



講演では、「人の幸せとは働くこと —障害のある人が持つ力、それを生かす社会—」と題して、日本理化学工業株式会社の大山泰弘会長様にお話しいただきました。同社は全従業員 77 人中 57 人が知的障害者(内 25 人が重度の障害者)が働いている、学校で使うチョーク製造を主とした会社です。『日本でいちばん大切にしたい会社』(坂本光司著 あさ出版)で紹介され、人々に感動を与える会社として有名です。大山会長様は、知的障害者多数雇用モデル工場を作った企業経営(知的障害者の理解力に合わせた工程の工夫、知的障害者の親切さを活用しての班長制度等)、皆働社会実現への提言をされました。



以下、参加者のアンケートを紹介します。

#### 【シンポジウム】

- ・企業の熱い思い、他人事でない取組に感動しました。(教育行政)
- ・障害があっても能力を生かせることで普通の人以上の力を発揮できる力があるし、受け入れる側も雇用される側もお互い理解しあえることが必要だと思いました。(保護者)
- ・障害のある人々の持つ力と、健常者の方々が自分たちにはない力と捉え、その人たちがいないと成り立たないと考えられている職場環境が素晴らしい。(特別支援学校)
- ・学校での学び、働く力、生きる力の育成が、就労、働く現場につながっていると確信できる機会となったとともに、今後の教育の方向性の示唆となりました。(特別支援学校)

## 【講演】

- ・障害者の雇用には経営者の考え方だけでなく、実際に一緒に働く従業員の理解が大切だと感じた。(特別支援学校)
- ・誰もが役に立つ才能を有していることを基本的に理解することの重みを強く意識できました。ものを考える上での大切な視点に改めて気づかされました。(教育行政)
- ・すべての人が働ける社会について改めて考える機会を与えていただきました。(労働行政)
- ・障害者だけでなく人にとって「役に立つ」ことが幸せということをついつい忘れがちになってしまいますが、とても重要なことだと改めて思いました。できることを精一杯やることは、簡単なようで難しくさらに人と比べがちになってしまうことも多くあります。「できたらほめる」「ほめることが続ける力になる」それを改めて感じるいい講演でした。(福祉)
- ・対応さえしっかりできれば貴重な戦力になること。みんなが幸せになるためには仕事をしていくことができる人が仕事をするためのサポートが必須であり、人としては当然であることが大山さんの話からよく理解できました。(保健行政)
- ・重度の障害があっても人に役立てることが感じられると、皆働けるのだというのがよくわかり良かったです。共感脳を大切に育てたいと思いました。たくさんいい言葉をありがとうございました。(保護者)
- ・会長の優しさを感じる内容であった。真の福祉社会とは自他共に喜べる社会のことだと感じた。(一般)
- ・障害のある人の働く力について改めて考える機会となりました。その人にあったやり方を工夫すれば、人や会社の役に立てるのだ、そのことで幸せを得ることができるのだと学びました。誰かに必要とされて嬉しい、頑張ろうと思える生徒を育む教育を目指したいと思いました。(特別支援学校)
- ・人の役に立つ共感脳。たくさん学ぶことができ本当にありがとうございました。知的障害を持つわが子の伸びる芽を親が摘んだらあかん！と痛感しております。ありがとうございました。(保護者)